

今、何の病気が流行しているか！

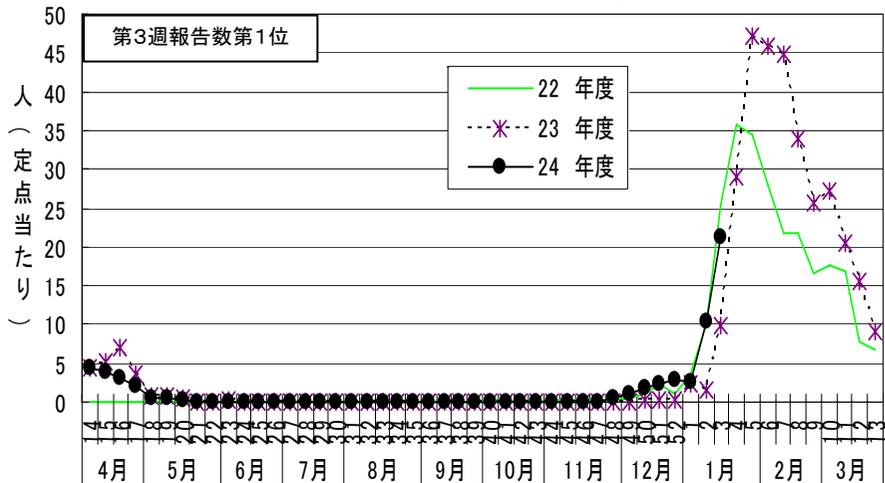
【感染症発生動向調査事業から】



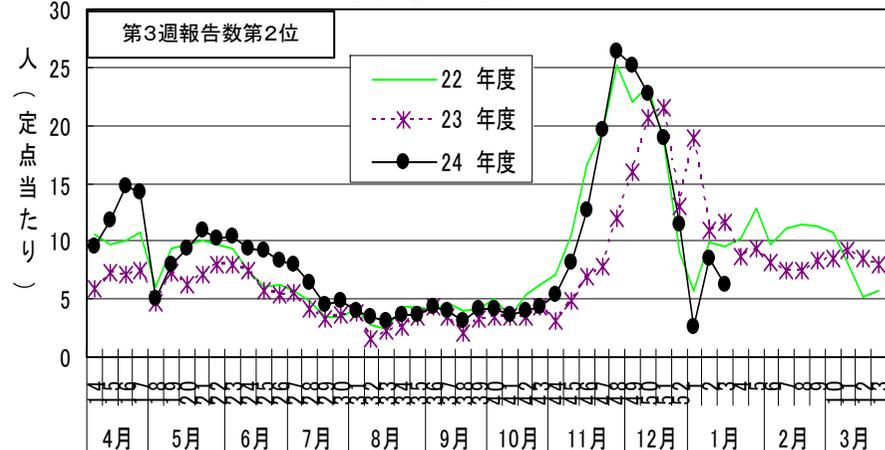
平成25年1月14日（月）～1月20日（日）〔平成25年第3週〕の感染症発生状況

第3週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 インフルエンザは定点当たり21.31人と前週（10.37）より患者報告数は大幅に増加し、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎は定点当たり6.30人と前週（8.55）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.61人と前週（1.39）より患者報告数は増加し、例年よりやや高いレベルで推移しています。

インフルエンザ発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ストップ インフルエンザ～まん延防止の主役はあなた～

左のグラフのとおり、インフルエンザの患者報告数が大幅に増加しています。そこで、今回は「自宅看病のポイント」及び「インフルエンザにかかったときの心構え」について御紹介します。

看病する人のポイント

- ①看病する人は、患者とともにマスクを着用しましょう（できれば手袋も）。
- ②患者と接触した後は、手洗いをしましょう。



部屋環境のポイント

- ①湿度を 50～60%に保ちましょう。
※ぬれたバスタオル等を部屋に干すと効果的です。
- ②こまめに換気をしましょう（1時間に数回）。
※風の入口と出口をつくり、風が通り抜けるようにすると効果的です。

インフルエンザにかかったときの心構え

- ①処方された薬を確実に服薬しましょう。
- ②主治医に指示された期間、受診以外の外出を控えましょう。
- ③受診や看護を受けるときは、咳エチケットを心がけ、マスクを着用しましょう。
※咳エチケットとは、咳・くしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りの人から顔をそむけることです。
- ④咳エチケットの後は、手洗いも忘れずに行いましょう。

